

子育て応援企画
小学生からの
海外交流

親子で参加できる 講座



主催：一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ
後援：岐阜県教育委員会 岐阜市 岐阜市教育委員会

子どもたちの耳はとても柔らかく、いろいろな音をあつという間につかまえて、口にすることができます。ことばの教育はできるだけ早い方がいいのではないかな…。いや、ことばの発達への妨げになるのではないかな…。また小学生や中学生には、感性が柔らかい子どものうちに、海外でホームステイを体験させたい…。などと、お母さん、お父さんはさぞかし子どもの未来に頭を悩ませたり、期待を膨らませたりしていることでしょう。

ヒッポファミリークラブは、「話す」ことの本質にせまり、赤ちゃんからシニアまで多世代の中で、**大人も子どもも一緒に誰もがことばを育てあえる多言語の環境**づくりをしてきました。今回の講座では、「多言語で育てる豊かな心とコミュニケーション力」についてのお話を聞いていただきます。もし日本語以外のことばが自由に話せたら世界がもっと広がるでしょう。親子一緒に、多言語だからこそ世界に向かえる人になれることや、ことばを話すことの楽しさを多角的な視野から皆さんと一緒に考えてみたいと思います。子育て中のみなさんの交流の場にもなればと考えています。

講座

世界に通じる、ことばと心

家族や仲間と楽しく育てたことばは、確実に自分のことばになります。
そんな言葉や青少年が育つ環境について一緒に考えましょう！

11月27日(日)午後 1:30~3:30

みんなの森 ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

参加
無料

★お話を聞けるお子様は一緒にどうぞ

- ★年齢を問わずお一人でも、乳幼児をお持ちのご家族も参加いただけます。いずれも申込下さい
- ★イベント当日前に参加確認のお電話を差し上げます。欠席される際には事前にご連絡ください

参加申込書 (切り取らずにこのまま送信して下さい) FAX:052-581-6532

参加人数	大人_____人	子ども_____人 (____才____才____才)
お名前	tel _____	
ご住所 〒	_____	

*ご提供頂いた個人情報は、当財団の定める「個人情報に関する基本方針」に従って厳重に管理いたします。
また、当財団は、業務の承継先以外の第三者に提供することはありません。

hippo 一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ

お問い合わせ
お申し込み

フリーダイヤル
(携帯も可)

0120-557-761
[受付時間 平日9:00~17:30]

ホームページアドレス
<http://www.lexhippo.gr.jp/>



《当日のプログラム》

- ★ヒッポファミリークラブの概要
- ★海外ホームステイの体験談
- ★講師の話
- ★懇談タイム



《海外交流活動実績》

◆海外ホームステイ:小5から参加

春休み～マレーシア・オーストラリア・USA・フランス
夏休み～韓国・ロシア・台湾・USA・メキシコ・イタリア

◆多言語キャンプ:小4から参加

春休み～長野
夏休み～長野、タイ、上海

◆高校生交換留学(約1年間)

夏出発～USA、カナダ、フランス、
ドイツ、スペイン等
冬出発～オーストラリア、マレーシア、
ブラジル等

一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブとは。

国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションできるようになれたら…。そんな思いから1981年、多言語(いくつものことば)を、自然習得(母語の習得のプロセス)するヒッポファミリークラブは誕生しました。大人も子どもも一緒に楽しみながら活動しています。

国際交流では、小学生からの青少年ホームステイ、留学生の受け入れプログラム、高校生交換留学、大学生や社会人のための海外インターンシップ等があり、地域の国際化への一助として、講演会や小中学校から依頼を受けた国際理解授業などを実施しています。

NEWS! 東京大学、MIT(マサチューセッツ工科大学)ヒッポファミリークラブによる、多言語習得のメカニズムとその効果を脳科学的に調査研究が始まりました。



左からヒッポファミリークラブの鈴木堅史理事、マサチューセッツ工科大学のスザンヌ・フリン教授、東京大学の酒井邦嘉教授

「10代で海外体験をする意味」 榊原 陽 一般財団法人言語交流研究所 創始者

この青少年海外ホームステイ交流は単なる観光旅行、または通りいっぺんの就学旅行ではありません。子どもたち自身に、何年もかけて心の準備をさせ、激動の青春期に入っていき前の最も大切な瞬間である十代のなかばに未知の生活を体験させ、そのみずみずしい回想をその後の成長の核にさせようとするものです。

目指しているものは第一に、子どもたちに、深く、あたたかい人間関係の網の目を通して、世界を知ってもらいたいということです。そのためには、子ども自身が、外国の友だちを作り、友情を育てるような環境(状況)をつくらなければなりません。地球儀と本だけで世界をわからせようとするのではなく、人々との心とのふれあいでわからせることを方針にしています。

次に、ある目標に向かって長い間歩き続けることのできる子どもたちを育てることです。幼い日にたてた計画を、五年、十年かかって実現するそのとき、子どもたちはすでに何ものかをつかんでいるはずで、この、青少年交流という種子に、朝夕欠かさず、喜んで水をやる習慣がつくように、私たち大人の側から見守ってやりたいと考えます。